

2日目

3月26日(火)

芳井町民会館

**サミット会議「人づくりを基本とした町づくり」**

**- 心豊かな活力に満ちた町づくりを目指して -**

開会

司会(小林)

皆さんおはようございます。

昨日は第1日目の各行事にご参加いただきまして大変ありがとうございました。お疲れになったことと存じます。本日もまたよろしく願いいたしたいと思います。

私は、本日の司会をやらさせていただきます芳井町役場の企画振興課小林でございます。どうかよろしく願いいたします。

それでは、交流会に入ります前に、本日の日程につきましてご紹介をさせていただきます。

これから交流会をお願いいたすわけですが、この会議が終了いたしましたら玄関前にバスを用意いたしております。このバスへ乗っていただきまして、視察をしたいと思います。

我が町には自慢して案内できるところもございませんので、きょうは芳井町の歴史民俗資料館をご案内させていただくことにいたしました。その後、隣にあります中央公民館で少々時間は早いわけですが食事をとっていただきます。それから、食事の後12時半になりましたら公民館前をバスで出発して、第2の視察先であります井原市の田中美術館へご案内をさせていただきたいと思います。

この美術館には、近代木彫界の巨匠と言われる平櫛田中先生の作品がたくさん展示されております。その視察を13時30分ごろには終わりたいと思います。そこで第6回の雪舟サミットのすべての行事を終わらせていただくということになります。それから、JRをご利用の方々につきましては、14時30分ごろまでには福山駅へ到着するように車を手配いたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、ご案内いたしております雪舟ゆかりの自治体トップによります交流会議をただいまから開催させていただきます。交流会の進行役は、開催地であります芳井町長をお願いしたいと思います。

それでは、佐藤町長よろしく願いいたします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

皆さんおはようございます。

きょうは、昨日に引き続きましてトップによりますところのサミット会議を開催をいたしたいと存じます。町民の多くの方もご出席を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

す。

それでは、開催地の町長が進行役を務めるというふうなことでありますので、僭越とは存じますが私の方からいろいろご提案なりいたしたいと、かように存じますのでよろしく願いをいたします。

さて、今回のテーマは人づくりというふうなことを基本にしてまちづくりを行っている、その状況等をお聞かせ願いたいということに事務局会議で相なっておったようでございますが、それを誇示せず、そしてまた雪舟に関連しなくて、まちづくりにお取り組みになっておる状況をひとつ赤裸々にご発言いただければ、3市3町いいニュースが得られるのではないかというふうに考えますので、皆さん方遠慮なしにどしどしご発言を願いたいと、かように存じます。

それでは、五十音順で昨年大変お世話になりました大野町の三浦町長さんの方からひとつお願いをいたします。

大分県大野町・三浦寛喜町長

ご紹介をいただきました大野町の三浦でございます。

昨日は、また芳井町の皆様方から心温まるご歓迎をいただきまして、感銘深いひとときを過ごすことができました。大変ありがとうございました。

それでは、先ほどのテーマに沿いまして「人づくりを基本としたまちづくり」、「心豊かな活力に満ちたまちづくりを目指して」を、テーマに沿って要点のご報告を申し述べさせていただきますと思います。

さて、本町では21世紀に向かいまして「活力に満ちた人づくり」、そして「環境づくり」、「緑の里づくり」をテーマにいたしまして、魅力と生きがいのある福祉のまちづくりを目指しているところでございます。

このような取り組みの中で、ご案内のように地方分権の時代を迎える中で、地域の自主性、そしてまた主体性を持った独自の創造と工夫のもとに、町民ぐるみで活性化を図る時代であると私どもは今認識をいたしておるところでございます。

こうした時代の中で、本町を取り巻く状況というものは、昨日時間がございませんで紹介も十分できませんでしたが、農道空港がその他飛行場に昇格をいたしました。また、1町村のみでは活性化できませんので、隣接する町村と共通して取り組まなければならない大きな課題であります県道というものがございしますが、そうした県道の整備も軌道に乗ってまいりました。

一方また、大分市から阿蘇を通り熊本までの中九州を横断する高規格道路がいよいよ我が町を貫通するということが決定をされました。そしてまた、それに面して、私どもの町に道の駅というものができるといった構想も具体的に練りつつございます。

また、第5回雪舟サミットを大野町で開催させていただきましたが、その前の年から取り組んでまいりました水墨画ですが、雪舟さんの水墨画というものを取り組んでいくことによって雪舟さんの心に迫っていくものがあるんじゃないか、あるいはまた生きがいのあ

る心の豊かさが実感できるような文化の里づくりを目指そうということで、一村一文化事業に取り組んでまいりました。昨年10月に大分県の一村文化として指定を受けることができました。いよいよ平成10年には大分県で国民文化祭が開催されることになっております。これに合わせまして、美術館等を建設して一村一文化事業の具体的な展開を図ろうとしているところです。また隣接する町村の方々にも呼びかけて、町が主体となって水墨画教室を開催しており、また小・中学生の生徒にもこの教育課程に水墨画も入れていただいで取り組んでいるところでございます。

このように、近い将来に大きく飛躍・発展する未来を創造しながら、今こそ町民の創意と総力を結集して、空と道と自然環境を生かして潤いと安らぎのある、豊かさが実感できる「ふるさと大野」を創出することが最大の課題であるわけでございます。

今まで私は、すぐれたまちづくりはすぐれた人づくりであると、いわゆる人材育成が先決ではないかというようなことで力を入れてまいりました。幸いにも、本町ではこれまで昭和60年から平成6年までの10年間に人材育成事業といたしまして、むらおこしリーダー塾を開設してまいりました。内容的には、自主的に参加するリーダーの育成に努めるものでございます。1人当たりの予算も年間15万円以内といたしまして、5期10年間で、延べ130有余名の参加をいただいできたところでございます。こうした塾生の方々から創意工夫のアイデアをいただきながら、農・工・商・官、そしてまた芸術文化の振興を図ることがねらいであります。そこでこれまで、塾生が中心となって取り組んでいるイベントを2つほどご紹介させていただきたいと思っております。これは資料の中にもあります大野彩時記というパンフレットの小さいものがありますが、後ほどごらんください。

その1つは、今年で第12回目を迎える、師田原湖面火祭りでございます。このイベントは、ジュースの空き罐を利用しますが、1戸2罐運動を展開し、この罐に重油をいれまして火をともしわけであります。これが町民総参加の一大イベントとして、毎年続きまして、県外からの観光客も多く5,000人を超す皆さんが集まる一大イベントとなったわけでございます。

2つ目には、大分県の県庁から大野町までの42.195キロを夜通し歩くというもので、塾生が計画をいたしましたナイトハイク大会であります。歩き着けばちょうどその時期が町花ボタン桜祭りでボタン桜が満開のときにご案内するというものです。いわゆる大野町をPRしながら、また若者の交流の場をとということで、これが既に定着して10年になっておるわけでございます。

さて、平成7年度からはむらおこしリーダー塾の5期10年間を一つの区切りといたしまして、人材育成事業のスタイルを変えまして、今回「活力あふれる町の担い手育成」として、定住を促進することを目的にいたしまして、11項目からなる大野町の定住促進条例なるものを制定いたしました。その中で4つほどをご紹介申し上げたいと思っております、まず第1点は、地域ぐるみで取り組んでいるその活動を支援するため、地域振興補助金というものを制度化いたしました。それから、2番目には、地域活性化を図るために15人

以上による学習会とか研修会とかいろんなサークル、グループがありますが、そうした実践活動を支援するための人材育成補助金、それから、3つ目には特色を生かした地域づくりで、団体、グループが何らかのユニークなイベントを実施する場合に、支援するためのイベント補助金制度でございます。

次に、最後であります、海外で異文化や産業等の研修視察、交流を行った場合には、国際交流補助金というものを差し上げようと、こういう制度を設けたわけでございます。

以上、これまでの限られた地域リーダーの育成から、広く多くの町民を対象に拡大をいたしまして、広く人材育成事業を進めているものでございます。

結びといたしまして、本町が直面している課題や、あるいは人材育成事業に関してご紹介してまいりましたが、先にも申し上げましたように、地域づくりはやっぱり私は人づくりではないかと思えますし、その人づくりというものを原点にしながら、本町が目指しております活力ある「人づくり」、「環境づくり」、「緑の里づくり」に向かって町民一人一人の心を尊重して、町民の町民による町民のためのふるさとづくりに努めているところでございます。どうか皆様方のご指導、ご提言も賜れば幸いです。

どうもありがとうございました。(拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

どうも三浦町長さんありがとうございました。

それでは次に、川崎町の助役さんにひとつお願いをいたします。

福岡県川崎町・元永高美助役

おはようございます。川崎町でございます。

川崎町は、約10年ほど前から人づくり、まちづくり運動というのをやっております。これにつきましては、きのうもご報告をさせていただきましたように炭坑でかつては栄えた町でございますので、その炭坑がなくなりました後にどうするかというのが大きな町としてのテーマといたしますが、主要な課題になります。そこで、いろいろ企業誘致だとか、産業の振興・発展だとか、いろいろそういうことはもちろんやりましたが、それだけではどうも物足りないといえますが、皆さんが住んでよかったと、住みたいという町にしたい。それには、まず産業、そういったことも大切ですが、やっぱりふるさとを愛する気持ちが大切じゃないかというようなことがいろいろ議論されました。10年ほど前から人づくり、まちづくり運動というのを始めております。これは、具体的に申し上げますと、まず3つの運動を基本に据えております。1つは「あいさつ運動」ですね、あいさつ。それぞれ推進委員会というのが町の中に行政区長さんだとか、いろいろな組織、団体の方に入っていたまして推進委員会というのをつくっておりますが、その中で3つの部会を持ちまして、1つがあいさつ運動をするあいさつ部会でございます。このあいさつにつきましては、もちろんおはよう、こんにちは、こんばんはといったそういったあいさつもございますが、それだけではなくて、顔を合わせますと町民同士お互いに声をかけ合ってなごやかな気分に気持ちをつくっていくというようなことであいさつ運動をまず前提に。これにつきましては

では、それぞれ小・中学校で標語を募集いたしまして、町のあちこちにそれを掲げるとい  
うようなこともやっております。

それからもう一点は美化運動ですね、美化部会というのがあります。これにつきまして  
も、それぞれ行政区にモデルをつくりまして、そこで具体的な美化運動をしていただいて  
年1回発表していただくというようなことをやっております。町のあちこちに空き地なん  
かありますところには花を植える、あるいは年1回町民総出で空き罐拾いをするとか、そ  
ういった行事を行っております。

それから、3つ目になりますが、これは体力づくり運動です。まず、心身ともに健康で  
なければ明るく住みよい町は築けないというようなことから、積極的にスポーツですね、  
野球、ソフト、バレー、その他スポーツですね、それから歩け歩け運動ですね、そういっ  
たことにお互いに参加をするということで進めております。この3つの運動を基本にしま  
して、川崎町としての新しい歴史といいますか、伝統といいますか、そういったものをつ  
くり上げようではない。そして、みんなが住んでよかった、住みたくなる町にしようでは  
ないかということで、炭坑が閉山した跡の荒涼とした気持ちをなごやかにしまして、そう  
いった町にしようということで現在も進めております。地道なごく当たり前の運動でござ  
いますので、運動を始めたからといって即効果が出るというわけではないかと思いき  
れども、少しずつ徐々に町がきれいになる、あるいは空き罐を捨てないといったマナーア  
ップされまして町としての住みよさ、そういったものが出てきつつある、そういうふう  
に考えております。

この運動の中で、そういった成果もありますが、毎年11月には総合文化祭というのを  
やっております。これは、もうあらゆる文化を展示をする、絵画、習字ですね。あるいは  
また、ステージ部門等に参加をしていただくというようなことで総合文化祭を計画をし、  
実施をしております。文化的にも今まで町として多少不毛の地といいますか、そういうと  
ころがありましたので、文化的にも立派なものにしていこうではないかというようなこと  
で進めております。その3つの運動を柱にしまして、さらに平成3年には5,000万円  
を基金といたしまして、人づくり基金ということで毎年適当な活動に対して助成をしてい  
くというようなこともやっております。

以上、簡単でございましたが、報告をさせていただきます。(拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

どうも、助役さんありがとうございました。

それでは、雪舟生誕の地総社市さんの本行市町さんの方からご発表願いたいと存じます。

岡山県総社市・本行節夫市町

総社市でございますが、位置的にはきのうのお話で申し上げましたように非常に県南の  
便利のいいところでございます。大変ありがたいと思っております。きのう申しました  
ように、人口がこの度の国勢調査で6.4%の増というふうなことです。これをひと  
つさらに確保し、伸ばしていこうと。そのためには、やっぱりそこにいい人がいるとい

ことが大事でございます。そこで、いろいろと試みをやってまいりました。

まず、市民交流を活発に行っている団体に、総社市の子供会の連合会がございます。平成3年5月にミステリー列車というのを仕立てまして、最初に益田市を訪問をいたしました。以後、毎年5月に皆さん方ゆかりの地を訪れておりますが、お休みにもかかわらず受け入れについてご尽力をいただいております方に対して厚く御礼申し上げます。

また、本市には文化振興財団というのをつくっております、それが雪舟足跡めぐりツアーを設けてゆかりの地を訪問してまいりましたが、やはり行く先や参加者がマンネリ化したというふうなことで一応休止をしております。新たな企画をもって再開をしたい、このように思っております。

また、一般市民が気軽に雪舟さんの偉業に触れることができるように、雪舟ゆかりの地交流促進事業補助金、この制度をつくりまして、PRもしております。

交流に関しましては、雪舟さん絡みではございませんが、毎年度中学生を十数名カナダの太平洋側でございますが、ソルトスプリング島へのホームステイを行い、大変な好評を得ております。やはり中学生時代に外国の生活に触れる、こういうことは大きな効果があるだろうという想定のもとに取り組んでおりますが、これは非常な好評でございます。雪舟さんとはかかわりませんが、そういう外国との中学生時代からの交流、こういうものに取り組んでおるといふことでございます。

それから、ちょっと前でございますが、雪舟のテレホンカードをつくったことがございましたが、大変好評でありました。そこでまた、新しく作成をする予定にしておりますし、名刺も世界の十大文化人としてルーマニアとソビエトにおいて切手が発行されました。その切手を名刺台紙に印刷して大いに利用をし、雪舟さんのふるさとである総社市のPRに一役買っておるところでございます。

また、町中で雪舟という文字を見かけることが非常に多くなりました。団体の名称の冠につけるとか、イベントであるとか、お菓子の名前であるとか、あるいは彫刻であるとか、そういうものが増えるようになってまいりました。

今後、雪舟関連事業の目玉といたしまして、その1つ大きく取り上げておりますのは、雪舟の里総社墨彩画公募展ということでパンフをお持ちいただいたと思いますが、これは雪舟さんの偉業と足跡を顕彰するということや、広くすぐれた墨彩画作品を全国公募するということございまして、審査には前の東京芸術大学の学長であります平山郁夫先生を頂点としました6人の先生に審査をお願いをする、ということで今公募しております。ことしの夏、審査でございます。今問い合わせが600件ぐらいあるようございまして、成功することを期待をしておりますが、その晩には総社市と岡山市で展示会をしようというふうにしております。

なお、賞金でございますが、大賞の買い上げということで、それにつきましては300万円、1点でございます。そのほか特選等々用意をしております。全国でも最高レベルの墨彩画作品の公募展であろうと、こういうふう位置づけておるところでございます。

もう一つの目玉は、きのう申し上げましたように岡山・総社インターの南側、つまり備中の国赤浜に生まれるという雪舟の生誕地でございますが、用地約5,000平米を確保いたしまして、整備をしていこうということでございまして、今までのものを少し大きくしようということでございます。今では路上駐車で見えていただいたのが入って一休みしていただけるような生誕の地を顕彰しようと、こういうふうなことを予定しております。

それから、平8年度から始まります第3次の総社市総合計画、これで新たなるまちづくりをしていこうということでございますが、それはここに書いておりますように「吉備路にひらく人とみどりの交流都市」というテーマでもって取り組んでいこうということでございまして、そういう将来像を描いております。それを6つの柱を立てまして、その1つは「水とみどりの心安らぐ快適環境のまちづくり」、2つ目が「安全でにぎわいのあるまちづくり」、3つ目が「たがいを思いやる人にやさしい健康福祉のまちづくり」、その次が「いきいき心豊かにふれあう文化交流のまちづくり」、そして「活力ある産業のまちづくり」、これら5つを「市民が主役のまちづくり」ということで6本としてまとめまして、先般の3月議会でご議決をいただきました。これらを具体化していこうと、こういう取り組みにしております。

なお、全般的な問題でございますが、さきに言いましたように人口の増もございまして、県南の中核的な役割を果たせる場所でございますので、都市基盤整備、ハード面につきましては、それぞれに努力をしておるということをつけ加えておきます。

なお、仕掛人塾というのをつくっております、今5期ぐらいでしょうか、毎年10人ないし15、6人、1年間仕掛人塾ということで総社市のことを勉強してもらい、あるいは市外にも研修に行ってもらい、いろいろ討議をして仕掛人、まちづくりの仕掛人として活躍をしていただいております。もちろんOBと語る会等もございまして、あれこれ枠にとらわれない議論をしていただく、あるいは催し等も計画をし、実行もしていただいております。もう一つは、商工会議所の青年部が日中友好の児童絵画展、これをやりまして中国へ作品を送ります。向こうで選をしてもらって、その賞をいただきます。向こうからこちらへ来ます。若干雪舟を絡めた同様のことの相互の交歓、そんなことを民間でございましてやっております。これらが雪舟に絡んだ、ちなんだ人づくりのやや具体的な事柄でございます。

以上で終わります。(拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ありがとうございました。

続きまして、益田の市長さんは所用のため急遽お帰りになったということで総務部長さんにお越しをいただいておりますので、それでは益田市さんの方からお願いをいたします。

島根県益田市・大田梅二総務部長

市長が急遽所用が出来ましたので失礼とは存じますが、総務部長の大田でございます。まだ私、こういう場を予定をしておりますのでご報告がうまくできないと

思いますけれども、お許しをいただきたいと思います。

本市の場合、平成7年度国勢調査におきまして852名の人口の減少が起こったところでございます。やはり経済基盤が脆弱であるということが1つでございますし、陸の孤島と言われます山陰の過疎の地域でございます。何とかこれを脱却したいということで、平成5年7月に、待望の石見空港が開港いたしました。大変私ども喜んでおるわけでございますが、市役所から15分ぐらいで空港に行くことができます。現在、東京便が1便、大阪便が1便でございます。東京便は大変利活用が進んでおります。80%近い搭乗率になっておりまして、平成9年羽田空港の拡張に合わせましての2便化実現ということで私ども市民と一緒にになりましてこの実現を図っていききたいと、目下一生懸命努力をしているさなかでございます。

そういう状況でございますので、人づくりという視点から若干かかわりはございますけれども、まず私ども第1番に平成10年に石見学園大学という大学、私立でございますけれども、ぜひ実現を図っていききたいと、目下一生懸命取り組みをいたしております。全国的に見まして、島根県、鳥取県には国公立はございまして私立の大学がないということでございます。したがって、ちょうどこの時期、石見空港もあるということから、九州で学校法人を経営しておられます方にご支援をいただきまして、ご協力をしていきたいと思いますということになりまして、この石見学園大学をぜひつくってほしいということで今、経済情報学部というような形で1学年300人規模のものを予定をいたしながら、今、これも地域の活性化という立場からも含めまして、教育、文化、地域の活性化、地域振興という視点からも含めまして、取り組んでおるところでございます。

それから、特に人づくりという点で申し上げますと、何点かあるわけでございますが、1つには福祉関係のお話をさせていただきますと、平成5年に老人保健福祉計画、実は私は当時福祉事務所長でそのときにたまたまこの業務に携わったわけでございますが、これからどのようにこれを実現していくかということで推進を図るという視点から、市民参加によるワーキンググループをひとつつくってほしいということにいたしました。議会の方のご承認もいただきながら早速それを手がけてまいりまして、広報等によりまして市民の皆さんに公募をいたしまして、やはり実践をする、提言をすると、こういう組織を呼びかけてまいりました。結果といたしまして、今私はその部署に携わっておりませんが、150名程度の市民の皆さんのご参加をいただいているんじゃないだろうかというふうに思っております。自分の興味のある1つのテーマを出しまして、それを10グループぐらいにさらにテーマを絞り込みまして、それを調査研究をし実践をしてるということをやっております。

そしてまた、地域におきましても、あるその地域をモデルといたしまして、そういうワーキンググループをつくりまして、そこに30名ばかりの市民の皆さんの申し込みがございまして、そういった活動を展開をいたしております。この中で、やはりみずからが実践をし、あるいは提言をするということで私どもそれを毎年6年、7年と提言をいただきな



から保健、医療、福祉のまちづくりに役立てをしておるとい状況でございます。とりわけ、福祉は医療との連携が非常に重要でございますので、本市の場合、益田日赤病院と医師会病院というのがございまして、それを構成団体といたしまして協議会をつくりまして、それを母体といたしましたワーキンググループ方式というものを今やっております。先生方からのご協力も大変進んでまいっております。したがって、このパンフレットの中にも掲げておりますけれども、8年4月からオープンをいたします「くにさき苑」という老人保健施設、99床でございますけれども、4人部屋も相当広くとりまして、トイレ、バスつきというような施設、2人部屋、1人部屋ということで17億円ぐらいお金が要りましたけれども、医師会病院に接続をいたしまして運営を医師会病院にお願いをすると、こういう施設もこのような状況の中から生まれておるといことでございます。

時間が長くなって申しわけございませんが、もう一点は歴史を生かしたまちづくりというのをやっております。これは雪舟のゆかりでもございますけれども、益田氏という地方の豪族がいます。昭和58年に大水害を受けました際、道路が非常に狭かったといことのでいろいろ復旧活動に支障をきたしました。その被災地域に、三宅御土居遺跡といまして中世の1200年代からございます土塁が残っていることがわかりました。その中に都市計画道路を入れていくといことので大変論争になりまして、文化団体の皆さんから市民の皆さんからそれはおかしいじゃないかと、開発するのはおかしいと。こういう大変な論争の中から、永原先生、新谷先生とい中世の大専門家でございますけれども、その先生方には今もってずっとかかわっていただいております、本年度全面的な発掘調査をやります。同時にまた、益田家の城がございました、山城でございますけれども、今もってこの七尾城址の遺跡発掘を手がけておりまして、国の重要文化財にも指定になるんじゃないかといような高い評価をいただいております。本市にございます医光寺万福寺を含めまして、ちょうど1600年関ヶ原の戦いの後、益田家が萩の家老として行かれましたので、城下でなくなりましてそのおかげで中世の面影が本市の場合は残っているといことでございます。したがって、益田地域一帯を歴史を生かしたまちづくりといことので今、長期的なビジョンを持って進めておるといことでございます。本年度は小学生、中学生を対象といたしました、やはり地域のそういうものを認識して実践的に認識する、ただ知識だけじゃなくって認識をしていこうと。こういうことから、歴史を生かしたパスポート事業といのを生徒たちにやっていこうとい新しい事業を興しております。

さらにまた、雪舟さんとのかかわりにおきましては、寧波市ですね、天童寺のございます。7年前ぐらいから交流を深めておりまして、本年が平成3年に友好交流議定書を締結いたしました本年で5年になります。そこで、チャーター便を用意いたしました市民参加を今求めておりまして、これは2回目になるわけでございますが、本年度130名ばかりの市民の友好訪問団を派遣するといような取り組みを考えております。

大変長くなりまして申しわけございません。以上でございます。(拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

総務部長さん大変どうもありがとうございました。

それでは、山口市の佐内市長さんお願いいたします。

山口県山口市・佐内正治市長

山口市長の佐内でございます。今回のサミットが6回目ということでサミット構成をされております各市町をこれまで訪問させていただきまして、それぞれの町のすばらしさを実感をしてきたところでございます。当芳井町におきましても、昨日来心温まるおもてなしをいただきまして大変ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、今日は「人づくりを基本としたまちづくり」というテーマをいただいておりますが、このテーマはある意味では、このまちづくりを行う上で古来から最も基本的な、あるいは大切なものであるというふうに思っておりますし、私ども行政をあずかる者にとりましても、最も心を砕いてきたものの一つであったと言えるのではないかと思っております。

よく「まちづくりは人づくり」と言われますけれども、町は人によってつくられます。また、その人も町の中で生活いたしまして多くのことを学んでまいります。人が生き生きとしておるときには町も生き生きとし、そこから情報が発信され、それによって人が集まってくる。その人と人との中から、その町特有の何かが生まれてくるのが理想の姿と言えるのではないかと思っております。

ここで山口のことをちょっとご紹介いたしますと、山口が過去輝いていたといいますが、歴史の表舞台に出てきたのはいつだったろうかというふうに考えてみますと、主に2度ほどあったと言えるのではないかと思います。1度目は、雪舟にも関連いたしますけれども、室町時代を中心とする大内氏の時代でございます。この時代は、大内氏は山口を本拠地として勢力を広げてきまして、全盛期には現在の九州北部から中国地方の西部までその支配下にあったというふうに言われております。大内氏は、山口を京都に見立ててまちづくりをしたというふうに言われておまして、現在のこの山口の町にも町並みが土地の名前など、その面影が色よく残っております。何々小路とか何々小路とかというふうな名前がたくさんございます。これとともに、大内氏のすばらしさは人に対する寛容さといいますが、人によるまちづくりを行ったことにあると思っております。その時代に山口を訪れた人には、ご案内のとおり雪舟さんはもとよりでございますが、連歌師の宗祇など、文化人を初めさまざまな人がおります。

また、全盛期には西日本における拠点都市として、人口が10万人を超えるというふうな時期もあったと言われております。特に雪舟に対しましては、金や船を出しまして中国への渡航を助けたりアトリエを提供したりと、大内氏自身が代々文化にかなり理解があったようでございますが、1人の人物には考えられないような援助をしておったようでございます。

また国際貿易、特に対朝鮮貿易にもかなり積極的で、その当時の町には外国の人もかなり住んでおったということもございます。これは大内氏の時代の終わりごろになるのでござ

ざいますが、フランシスコ・ザビエルにキリスト教の布教を許したことも、その当時では信じられないくらい寛容なことであったというふうに思います。

もう一つの時代は明治維新でございます。ご案内のように、幕末に長州藩の藩庁を萩から山口に移したことによりまして、再び山口が政治の表舞台に出てまいりました。山口県を統治しておりました毛利家は、次のNHKの大河ドラマにも決定したようでございますが、毛利元就に由来する家系で元来子弟教育に熱心な藩風であるというふうに思いますし、ご案内のように伊藤博文など下級士族の活躍にも見られますように、人材の登用にも寛容であるというふうに思います。その山口に全国から人々が、さまざまな人が集まっていきまして、さまざまな議論の中から生まれました長州藩のイデオロギーというものを全国に発信したものであったというふうに思っております。

この2つの時代から導かれますキーワードというものがあるとすれば、さまざまな人と人との交流、つまり異文化との交流でございまして、その中から生まれる町の個性ではないかと思われま。戦後の高度経済成長の中で、全国的な傾向として機能性、合理性、効率性を重視したまちづくりが行われてまいりまして、その結果、リトル東京と申しますか、どこにでもある個性のない町が全国各地に発生をしてまいりました。しかし、戦後50年たった現在、物から心へ人々の関心に移る中で、どうしたらゆとりや豊かさを実感できるだろうかという声が高まってまいったところでございます。

本市では、平成元年に策定をいたしました・・・これは平成12年を目標年次といたしておりますけれども

、第4次総合計画を立てまして、これに基づきまして計画的なまちづくりを進めておるところでございますが、ただいま申し上げましたような声にこたえるべく取り組んでおりますのが、個性あるまちづくりに向けた大内文化を活用したまちづくりということでございます。

本市には、大内氏が本拠を置いたことに由来しますさまざまな遺跡が現在をたくさん残っております。また、遺跡ばかりでなく地域に根差した祭り、あるいは言葉を初めとする生活用品など目に見えるもの見えないもの、市民の生活全般にわたりまして大内時代の流れが今でも残っておるところでございます。これらは山口市のアイデンティティを確立する上で有効なものであるという見地から、その再生に向け取り組みを行っているものが大内文化を核にしたまちづくりでございます。

具体的に申し上げますと、平成6年9月に民間人、それから議会、市の3者から成る大内文化のまちづくり懇話会を設置いたしまして、大内文化を生かしたまちづくりについていろいろ検討を重ねていただいております。昨年12月に私あてに提言を受けたところでございます。この提言にも含まれておりますけれども、まず大内氏の遺跡の整備と有効活用をする必要がございます。現在も大内氏の館跡などの遺跡につきましては、発掘調査が進められておるところでございまして、土塁や庭の跡、また食器などの貴重な遺物が発掘されているところでございまして、これらの跡地を今後どのようなものにするか、例え

ば遺跡公園のようなものにするのか、あるいは博物館的なものをつくるか、これからさらにさらに検討をしてみなければなりません、いずれにいたしましても、この山口を訪れた人に大内氏に関する貴重な資源を見て帰っていただけるようなものを整備する必要があるかと考えております。

次に、市民の皆さんの生活環境の向上、大内文化に対する意識の向上にもつながることですが、大内文化を生かした環境整備がでございます。

本市には、市街地のほぼ中心を一の坂川という川が流れております。大内氏が山口を京都に似せてまちづくりを行いました際に、館の近くを流れるこの川を賀茂川に見立てたと言われております。6月の初めごろには、今でも源氏ポタルが見られる川でございますが、この周辺の昔から残る町並みを残そうという住民の強い意向もございまして、昨年8月にこの川の周辺地区の一部を市の景観条例に基づく景観形成地区に指定したところでございます。このような景観形成の地区指定によるもののほか、公共施設などを建設する際にも、大内文化を含め環境に配慮したものに整備していくように取り組んでおるところでございます。

3点目としては、恐らくこれがまちづくりのかぎを握る部分であると思っておりますけれども、いわゆるソフト面の展開を中心にした交流の促進でございます。この雪舟サミットもいわば大内氏の時代があればこそつながりがあるわけでございますが、こういった大内氏から始まる交流を広く広げていこうと、取り組んでおるところでございます。

国際交流におきましても、3つの国の都市と姉妹都市、あるいは友好都市関係を結んでおりますけれども、そのうち2都市につきましては、大内氏に関連した縁によるものでございます。特に、大内氏の祖先の出身の地と言われております韓国の公州市とは、昨年公州市で行われました百濟文化祭に本市からも参加いたしまして、大内氏の祖と言われます琳徳太子を中心とする一行32名が行進をいたしました。広州市の市民の皆様から大変な歓迎を受けたところでございます。これからは、国を通さず、直接自治体と自治体が交流する時代でございまして、こういった国際交流も今後より発展させてまいりたいと思っております。

もう一つご紹介いたしますと、前回の大野町でのサミットでもお話したと思っておりますけれども、山口世界音楽祭についてでございます。これは、フランシスコ・サビエルが大内氏に西洋楽器を献上いたしましたことや、日本で初めてミサが開かれたという記録から、山口が西洋音楽の発祥の地であったという認識に基づきまして、実施しておるものでございます。毎年、特定の国のテーマを設けまして、著名な音楽家を招聘して実施しております。今年度のテーマは、ドイツということでソプラノ歌手鮫島有美子さんらを招きまして、6回にわたり開催をいたしたところでございます。

今後、こういったさまざまなソフト事業をより強力で効率的に展開をしてみたいと思いますために、来年度、もうこれ4月からでございますが、総社市さんもおつくりになっておるようでございますが、山口市文化振興財団を設立いたしまして、山口市の文化交流を図って

いくこととしております。また、文化活動の拠点となる施設として、仮称ではございますが文化交流プラザの建設も予定をしております。この施設は、舞台芸術等の参加、鑑賞の場としてのみでなく、公園などと一体的に整備することにより、人が集まり交流できる場として考えておるところでございます。

そのほかご紹介申し上げたいことはございますが、時間の関係もございますので以上で人づくりの紹介は終わりたいと思いますが、いずれにいたしましても今後大内文化というものをハード面の整備だけで終わることなく、ソフト面も含めた山口のまちづくり全体のバックボーンとして活用していくことで個性的な文化豊かなまちづくりを進めまして、そこに生活をしておる人々にとりまして、また訪れられました人にとりまして、人と人との交流も含め、町の中から刺激を受け、新たなるものを創造し、あるいは発見できるような環境づくりを進めてまいりたいと考えております。

以上でまちづくり報告は終わりたいと思えますけれども、この場をおかりいたしまして、今後の雪舟サミットの進め方について1つ提案をさせていただきたいと思えます。

これは、この次のテーマで話し合うことになると思えますけれども、その対象の一つとして加えていただければと存じます。それは、以前総社市長さんに、本行市長さんにお会いしましたときにお話申し上げ、市長さんからもご賛同をいただいたところでございますが、このサミット参加市町で災害時における相互応援協定を結んだらどうかということでございます。この雪舟サミットも今回で構成市町を一巡して、お互いの交流、情報交換という面におきましては一定の効果を得ておると認識しておるところでございますが、今後2巡目ということになりますと、これまで深めてまいりました交流をもとに、さらに踏み込んだ具体的なアクションを起こしていくことも必要かと思っております。

昨年の阪神・淡路大震災におきまして、大規模な災害発生時に単独の自治体自体で対処していくことがどんなに困難であるかということが改めて認識されまして、現在各自治体間で平時からそれに備えた体制づくりが進められておることはご案内のとおりでございます。幸い、このサミット参加市町は、3市3町は岡山県、島根県、山口県、福岡県、大分県と西日本に集中しておりまして、援助をいたしましてもそう多くの時間を要するほど離れていないという地理的条件に恵まれた環境にあると思えます。そういった意味で、この3市3町が災害時の相互応援協定を結ぶことは大きな意義があるのではなからうかというふうに思い提案させていただく次第でございます。

どうもありがとうございます。(拍手)

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

どうもありがとうございました。

ただいま佐内市長さんの方から取り組みの状況、そして最後には防災応援協定というふうなご提案も賜りましたが、これはひとつ後ほど皆さんとご一緒にいい検討課題というふうなことで皆さんにお諮りしたいと思えますが、それでは芳井町の状況を昨日時間的な制約もありましてやっておりますので、私の方から若干申し上げてみたいと、かように存

じます。

私は、町長就任2期目でございますが、最初当選をいたしました際に議会側の方から、「町長、町の活性化、町おこしは人をふやすということにあるんじゃないか」というふうなご提言を賜りまして、そうだと、全くそのとおりでありますと、人口をふやすことが何よりの活性化につながるというふうなことも私も考えたところございまして、それには「資金は要りますけれども努力しましょう」というような発言をしましたら議会の皆さん方も、町長がそういう気持ちになったんなら、まずひとつ知事のところへ資金の援助にひとつ行こうではないかというふうなお話をいただきまして、しりをたたかれたというような感があるかとも思います。そういう関係で、平成5年には町営住宅18世帯入れるものを国道313号線沿いに建設をいたしました。約3億円を投じております。そのうち、1億5,000万円を県の振興資金を貸してやろうというふうな知事のご発言を賜って安心して帰ったと。それから、続きまして第2期工事といたしまして、平成7年度に約2億円を投じまして12戸の町営住宅を建設いたしましたところでございます。

知事に最初にお願ひに行きましたときに、「町長、いい町営住宅を建設しても、子供が成人したらみんな出ていってしまうよ」と、「永久に芳井町の人口がふえるというふうなことは考えられない」と。したがって、分譲宅地をひとつ町でやれと、県も助成してやろうというふうなお話で、3億円要るその経費もなかなか知事は「うん」と言ってもらえなかったわけでございますけれども、分譲宅地、分譲住宅というふうなものについては、芳井町はもう以前から取り組んでおるという状況を話しましたら、よく私らの地域では言うんですが、「五合ずり」ということがあります。3億円要るんなら半分の1億5,000万円をということで借用をいたしたところでございます。私方は、ずっと以前から、町営住宅でなしに、町有住宅制度を設けておりますと。毎月4万円の家賃を支払っていただきまして、20年後にはそれを払い下げるという制度をつくっておるんだというふうなお話をいたしましたら、よしそれをやっておるんなら半分の1億5,000万円、五合ずりで貸してやろうということになったわけでございます。それでひとつ人口をふやせというふうなことに踏み切っておるところでございます。知事のおっしゃる分譲宅地制度につきましても、昨年分譲宅地をつくりました。地元議員のほかならぬご協力とご努力をいただきましてできたわけでございますが、引き続きまして今度は今年度分譲宅地を60から100ぐらいはぜひつくって人口をふやしていこうという方針で議会の皆さん方へも全員協議会でもって趣旨の説明をし、ご協力をいただいております。そんなに宅地ばかりつくってふえる要因があるかというふうなご質問もあろうかとも存じますが、実は県の工業団地を隣の井原市へ100ヘクタールのもをつくるというようなことで県議会議員が大いに努力されまして、今年からもう実施設計に移すというようなことに相なっておりますので、宅地をしたら必ずこれは売却でき、求めていただけるものだというふうな思っております。

たくさんの方々の市町の方々がお話になる中に、文化振興財団というふうなものをおつくり

なっとるようでございますが、私方にはまだそれがございません。残念なことです、いずれ議会側の皆さん方からもそういうご要請は多分出るものだろうと思ひまして、喜んでおるところでございます。

それから、先年、いわゆる町の活性化には人口増ということを中心に、建物の方は宅地とともにやっておりますが、現在の状況では、ちょっと戒名のへったら長い条例を先年制定をしていただきました。「生き生きまちづくり条例」というものでございます。この条例の中身といたしましては、きょう現在、市長さん方はお困りではないと思うんですが、結婚をしない人、しようと思つてもできない人がたくさんあります。したがひまして、この生き生きまちづくり条例を制定いたしまして、結婚された方に結婚祝い金を差し上げます。それから、きょう現在厚生省の白書には、少子化時代を迎え、1.5人程度しか子供をつくっておりません。したがひまして、これをどうにかうまく活用するためには、たくさんの子供をつくっていただくということで2人目の子供さんから町で助成金を差し上げようと。

なお、結婚にいわゆるお世話してゴールインに持って行ってくださった方、いわゆる媒酌人に報償金制度をつくっております。それと、高校、大学を卒業されまして我が町にとどまっていた方、芳井町へねぐらを置いて隣の井原市、倉敷、笠岡、福山、こういう方面へお勤めに出ていただく方には留町助成金というのを生き生きまちづくり条例の中にも織り込んでおります。

それから、格別に芳井町の産業の発展にお力添えを賜った方に予算の範囲内で助成金を差し上げる。海外研修にお出かけになった方にも助成金を差し上げるというのがこのまちづくり条例の中身でございます。いずれこの金額もアップしていかねばというふうな気持ちであります、なかなか予算的なこととなりますのでそこまではまだ踏み切つてはおりませんけれども、今後はそういう方向へ持っていこうというように考えておるところでございます。

それから、皆さんの町において社会福祉協議会というものが多分あると思ひますが、おくれればせではございますけれども、我が芳井町におきまして、この社協の認識を深めていただくと同時に、社会福祉協議会の強化を図るということで、ようやく会員制度の発足を見ておるところでございます、理事の皆さん方には夜々出ていただきまして、1口1,000円で会員になっていただくということをきょう現在進めておるところでございます。

おわびをしかし申し上げねばならんことがございますが、3月末ということで市長さん、町長さん方、年度末になぜ芳井は持っていくのかというご質問も多分沸いてくるものだと思いますが、我が町には中央公民館と申しまして、約250人余りしか入れない施設しかございませんでした。近隣の市町村には市民会館、町民会館の立派なものがございます。こういうものもひとつぜひつくれというふうなことで、町民の皆さん方もそういう方向づけをしたらというようなご提案もたびたびいただいたところでございます。もっとももとに

なるのはこれまた資金でございまして、その資金をどうにかめどを立てましたので、一昨年からこの館を建てる計画に持っていまして、15億6,000万円かけまして、これが2月29日に竣工式を挙げていたということ、ぜひこの館で雪舟サミットをやって皆さん方にお越しをいただいたらというように考えまして、大変遅くなりまして開催いたしましたことを心からおわびを申し上げる次第でございます。

名称は町民会館でございますが、生涯学習施設として県なり国の方へ登録をいたしたところでございます。この生涯学習センターによりまして、人間は一生涯生まれて死ぬるまで勉強をということで図書館も併設をいたしております。子供向けの本から大人向けの本まで、2階と1階に分けてこの図書館も併設をいたしておるような状況でございます。

我が芳井町には小学校が5校ございます。それから、中学校が1校ございますが、非常に児童・生徒が減りつつある現状にかんがみまして、これまた大きな問題であるというふうに思いますが、子供も少ないというような状況で四苦八苦の状況にあります。議会側からも、町長どういう気持ちでこれを乗り切るのかというふうなお話もたびたび聞くところでございますが、これにはなかなかいい方法、手段も見つかりません。一番小さい学校では、児童数が11名というふうな学校がございます。地域の懇談会に行きまして、「町長、11人しかいない子供がおるのにどういう方法をとってふやしゃあ」というふうなご質問もいただきましたが、それは町長ひとりが考えてもどうにもならんことで、地域の住民の皆さん方も一緒になって一生懸命考えてほしいというふうなことも申し上げまして、まず山村留学ということでひとつお力添えをいただきたいと。おじいちゃんおばあちゃんのところで小学校だけは学校へ通うんだというふうなひとつお気持ちになるように、おじいちゃんおばあちゃんもなっていていただくと同時に、若い人は総社なり、福山なり、笠岡なり、井原の方にお出かけになっておりますが、そういう方の子供さんをひとつお守りをしていただけんかというようなことも提案いたしておりますが、まだこれが実現には相なってない、非常に残念なことでございます。市長さん、町長さん方のひとつアドバイスもいただければありがたいと、かように考えておりますのでよろしく願いをいたします。

それでは、これで各市町の町おこし、人づくり等に対する取り組みの状況は終わりにいたしまして、先ほど佐内市長さんの方からお話がございました防災協定の件について協議、意見交換をいたしたいと思っておりますが、佐内市長さんのご提案、非常に私は感銘をいたしておりますが、皆さんいかがなものでございましょうか。昨年の1月17日の神戸の大震災を踏まえてひとつご発言をいただければありがたいと、かように存じます。どうぞよろしく願いをいたします。

はいどうぞ。

岡山県総社市・本行節夫市長

前もって山口の市長さんからお話がございまして、私も大賛成でご同意を申し上げました。

去年の1月17日の阪神・淡路大震災、神戸へ私どもの市の常備消防でございまして、



一番に駆けつけてくれまして、数人の救助をしてくださいました。同時に、いろんな団体や組織の方々が向こうへ出動してくれまして、大いに活躍をしていただきました。今回お話がありますのも、みんなが寄るといことが割に容易でありますのと、むしろ離れておりますから、もし6市町でどっかにあっても被害に遭わないところができる。したがって、それは応援が容易である、こんなことも感じられますので。むしろだんごになっておりますと一緒にやられるといことがありますが、ばらけておりますから私は都合がいいのではないか。そういうことをあらかじめみんなが気をつけて、そのつもりで体制をとっておれば非常に防災上いいのではないかと、こういうふうに思いますので賛成でございます。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ありがとうございます。

ただいま本行市長さんの方から、ばらけておるからお互いに応援がしやすいというふうなご発言で賛成の意を表明していただきましたが、益田市さん、川崎町さん、大野町さん、いかがなものでしょうか。

益田市・大田総務部長、川崎町・元永高美助役、大野町・三浦寛喜町長

全く同感で賛成でありますから、よろしくお願いします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ああそうですか、ありがとうございます。

全員、佐内市長さん賛成でございますよ。

山口県山口市・佐内正治市長

ありがとうございます。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

私も賛成させていただきます。

山口県山口市・佐内正治市長

それで、細部についてはまた事務局で具体的な協定案をつくって詰めさせたらどうでしょうかね。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

はい。

協定案につきましては、担当の事務局で策を練っていただくということで皆さんご了承いただけますか。

〔「よろしゅうございます」〕

じゃあ、事務局へお任せするということをお願いをいたします。

それでは、今までお聞かせ願いました各市町の状況につきまして何かご質問がありますればご発言を賜りたいと思います。

別にご質疑もないようでございますので、それでは今後のサミットのあり方についてご協議を願いたいと思います。

これで一巡したわけですが、今後のことについてどなたかご発言を賜ればありがたいと、かように存じますが。

山口県山口市・佐内正治市長

また事務担当者会議でその案を、たたき台をつくっておられるようですけれども。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ちょっと、それじゃあそれをひとつ読み上げてみましょうか。

今、山口の佐内市長さんの方から事務担当者会議において取り組み方法について相談会をされておるようでございますので、この案をひとつ朗読いたしますので、ご了承賜りたいと存じます。

今後の取り組み方法について3点挙げてございます。住民参加型の交流事業を中心に開催し、参加市町間の友好と交流を深めて地域の活性化につなげていくと。ただし、交流事業の内容については、必ずしも雪舟に関係した事業でなくてもよいと。2番目が、首長によるサミット会議は参加市町の事情を考慮し、サミット会議開催に適したイベント、行事、祭りに時期を合わせておおむね2年に一度開催する。3番目が、事務局運営については、事務局を担当する幹事市町を決め、サミット会議及び交流事業等の連絡調整を行い、円滑かつ良好な運営が図られるように努める。

以上のことにつきましてご討議をいただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

いかがでしょうか、今3つの案を事務局で作成をいたしたようでございますが、市長さん、町長さん方どうでしょうか。

岡山県総社市・本行節夫市長

3つの案より3つを備えたということでしょう。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

そうです。

大分県大野町・三浦寛喜町長

いいですか。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

はいどうぞ。

大分県大野町・三浦寛喜町長

やっぱりこれは事務局がかなり過去を踏まえて考えていただいたんだと思うわけでありまして、一応一巡しましたので、こちら辺でそれぞれ共通する問題なりに取り組んでまいりまして、一呼吸置いておおむね2年に一度開催するといったようなこと等含めて、こうした今後の取り組みの案に私は賛成をいたします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

ありがとうございます。

ただいま大野町の三浦町長さんの方から賛成の意を表明していただきましたが、市長さ

ん、ほかに町長さん、いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。ありがとうございます。

それでは、2年に一度というようなことでやらしていただくということでご了承をいただきましたので、その方向でやらしていただくことにいたします。

次期の開催場所につきましてご提案いたしますが、第1回の雪舟サミットを担当していただきました総社市さん、生誕の地でもありますということで皆さんいかがでしょうか、次の開催地を来年、再来年というんでなくて、雪舟誕生の地を次の開催地にということで皆さんご了承いただけますでしょうか。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

一番に総社の市長さんのご了承をいただかんといけないわけなんです。

岡山県総社市・本行節夫市長

ここへ書いてありますように次回は総社市で（平成9年度）としてありますが、幹事は8年度について総社市というふうなことにも括弧書きつきで了承ということでよろしゅうございますか。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

結構です。

岡山県総社市・本行節夫市長

了承いたします。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

はい、じゃあよろしくひとつお願いをいたします。お世話になりますが、ご面倒をかけます。

山口県山口市・佐内正治市長

この前お伺いしたときから総社市さんも大分お変わりになったでしょうからね。町の中が変わってきたでしょう。

岡山県総社市・本行節夫市長

ああ多少変わったかもしれません。

岡山県芳井町・佐藤孝治町長

時間も相当経過をしてまいりました。ここでサミットに参加されております自治体が雪舟文化を中心に今後ますますの交流、友好が深まりますように、サミット宣言の採択に移りたいと思います。お手元の12ページをお開き願います。

それでは、先ほど皆さん方のお手元にお渡しいたしましたこの宣言文を読み上げますので、ひとつご賛成のほどお願いをいたしたいと思います。

サミット宣言。中世の光と影の中を飄然と生きぬき、自己の体験に基づいて独自の水墨画の世界を創りあげた画聖雪舟、そんな雪舟の作品は500年の時と空間を越えて現代に生きる我々にも静かな感動を与えてくれる。雪舟の描く山水図にも似たここ芳井の地に雪舟ゆかりの地である自治体が相集い、画聖雪舟の偉業を顕彰するとともに、相互の親善と

友好を深めながら、それぞれの地域で展開されている「まちづくり、人づくり」についての情報交換を行うことは、地域づくりを推進するうえで必要不可欠なものと確信する。よって、ここに関係市町が活力ある心豊かな地域づくりに向けてともに邁進するために、各分野の交流事業を今後未長く進めていくことを宣言する。平成8年3月26日、第6回雪舟サミット参加自治体交流会議。

以上。(拍手)

どうも皆さんご賛成ありがとうございました。

司会(小林)

どうもありがとうございました。次期開催地が先ほど総社市へ決まったわけですので、ここで次期開催地の総社市へ芳井町よりサミット旗をお渡ししたいと思っておりますので、総社市長さん、こちらの方へどうぞおいでください。

[サミット旗の引き継ぎ(芳井町～総社市)](拍手)

司会(小林)

それでは、総社市長さんから次期開催地ということで一言ごあいさつをいただきたいと思っております。

岡山県総社市・本行節夫市長

ただいまサミット旗を芳井町の佐藤町長から引き継ぎました。

ご承知のように、平成2年10月に第1回のサミットを私ども総社市で開かせていただきました。あれからもう6年の歳月が流れました。再び総社市、雪舟のふるさとであります総社市で開催することになりました。その間、公的な交流はもちろんでございますが、民間でも交流が活発化してまいっております。大変嬉しい限りでございます。

既にご紹介もしておりますが、私ども総社市では雪舟の里総社墨彩画公募展を計画し、また雪舟生誕地の公園の新たな事業展開にも取り組んでいこうということでございまして、予定をします平成9年度にはそのあたりの成果もごらんいただけるのではないかと、このように思っております。来年度1年はサミットのない年になりますが、その分につきましては大いにひとつ民間の交流を促進してまいりたい、このように思いますし、再来年にはどうぞ大勢総社へお越しいただきますように、全市民とともにご期待を申し上げまして、非常に簡単でございますがごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。(拍手)

司会(小林)

ありがとうございました。

昨日に引き続きまして、ご熱心にご報告並びにご協議をいただきまして大変ありがとうございました。心から御礼を申し上げます。

それでは、閉会にあたりまして芳井町収入役渡辺裕昌が閉会のごあいさつを申し上げます。

岡山県芳井町・渡辺裕昌収入役

おはようございます。

昨日からお引き続き、本当にお疲れさまでございました。サミット参加市町の皆さん方のご出席を賜りまして、昨日から本日にかけまして本当に盛会にできましたことを開催地、当番町の一人といたしまして本当に喜んでおり、また感謝するものでございます。

このサミットを機に、芳井町のサミットの初期の目的が達成できますよう努力してまいりたいと思います。それにつきましては、参加市町の皆様方のきめ細やかなご指導、ご鞭撻がいただければ本当にありがたいなというふうに考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

芳井町がお引き受けをいたしましても、過疎の小さな町でございまして、皆様方のご期待の添えるような賄いもできませず、本当に失礼をいたし、またふなれなこととございまして、不行き届き、不都合があったかとも思いますが、この雪舟サミットに免じましてご了承いただければありがたいなというふうに考えております。

それでは、これをもちまして第6回雪舟サミットのすべての日程を終わります。皆さんありがとうございました。(拍手)

司会(小林)

大変ありがとうございました。また、会場にお越しの皆さん方、大変ありがとうございました。

これをもちまして、第6回雪舟サミット交流会議を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。(拍手)